

第1問 以下の問いに答えよ。

以下に示すのは、現代日本人のストレスに関する調査(2002年)の結果について、一部を抜粋、改変したものである。結果を報告する文章およびグラフを参照し、a, b, cの3つの問いに解答しなさい。

- a. 文中の①～④の括弧に、もっとも適切な語句あるいは数値を記入しなさい。
- b. 文中の⑤の括弧に、本調査における女性の結果について、的確にまとめる文章を200～250字で作成しなさい。
- c. 本調査の結果から、現代日本人の「身体的イメージの理想と現実とのギャップ」にまつわるストレスについて、どのようなことが起こっていると考えられるか。あなたの考えを400字程度で述べなさい。

本調査では、「身体的イメージの理想と現実とのギャップ」が、現代人のストレスとなっているかどうかを確かめることとした。身体的イメージについて、本調査では「自分の容姿に不満がある」「ダイエットが必要である」の2つの思いをもつ出来事を取り上げた。

過去1年のあいだに、容姿や体型について、理想とのギャップを感じさせられる出来事を経験した人の割合について、まず報告する。本調査の結果、「自分の容姿に不満」を感じる出来事を経験した人は、全体の44.6%にあたり、男女別に見ると、男性の30.5%、女性の55.7%が経験したと回答している。また、「ダイエットが必要である」と感じた経験をした人は、全体の44.8%であり、男女別に見ると、男性の42.5%、女性の46.7%が経験したと回答している。すなわち、身体的イメージの理想と現実とのギャップを感じる出来事を経験した人は、全体の約半数にのぼっていることが明らかになった。

さらに、過去1年のあいだに、容姿や体型について、理想とのギャップを感じさせられる出来事を経験した人に対して、その出来事によってどの程度のストレスを感じたか、について回答を求めた。その結果、中程度あるいは強度のストレスを感じた、と回答した人の割合を、男女別、年代別に集計したのが図1および図2である。

まず、「自分の容姿に不満がある」ことでストレスを体験したと回答した人は、全体では(①)%であり、また「ダイエットが必要である」ことがストレスとして体験したと回答した人は全体の(②)%であった。

容姿や体型について、理想とのギャップを感じる出来事、ストレスとなる度合いには性別があるようである。図1および図2からも明らかのように、各年代とも(③)のほうがストレス体験率は高かった。まず、「(④)がストレスとして体験された」女性についてみてみると、30代がピークで、(⑤)%の女性がかなりのストレスを感じたと回答している。あとは40代の24.3%、(⑥)代の20.0%と続き、(⑦)代では(⑧)%で、70代の16.1%に次いで低かった。

男性の場合は40代を境に、容姿によるストレス体験率は半減した。30代と20代では(⑨)%以上の男性、40代ではほぼ15%の男性が容姿への不満でかなりのストレスを体験していると回答した。

次に、「ダイエットが必要」ということにかんするストレスを体験する女性の割合は全体的に高いが、40代を境に(⑩)している。(⑪)代がピークで、(⑫)人に1人はダイエットのことがかなりストレスとなっているようである。次いで30代の26.6%、20代の25.0%であった。70代では10.3%に減少し、50代、60代でもそれぞれ19.8%と15.7%であった。

他方、男性の場合は、ダイエットを必要とすることをかなりのストレスとして体験している割合は、(⑬)代だけが(⑭)%と際立って高かった。その次は40代の14.7%、20代の13.2%であり、50代以降は(⑮)%以下であった。

容姿への不満とダイエットの必要性という2つの典型的な身体イメージは、男性と女性で、また年代間で、ストレスとなる度合いが異なるようである。

男性の場合には、「(⑯)」すなわち体型の理想と現実のギャップでストレスを体験する人の割合が多かった年代は、「(⑰)」代と「(⑱)」代であり、その他の年代では「(⑲)」のほうが、わずかながらストレスの原因となりがちのようである。

女性の場合、()

図1 「自分の容姿に不満がある」ことで中程度・強度のストレスを感じた人の割合

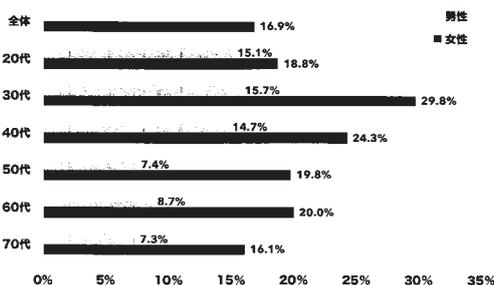
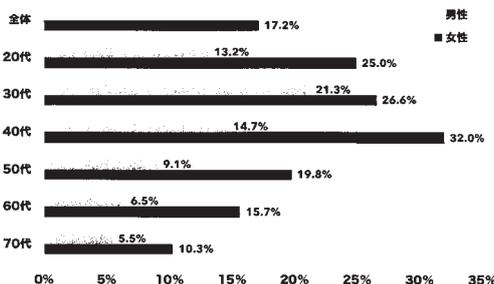


図2 「ダイエットが必要である」ことで中程度・強度のストレスを感じた人の割合



傾向 課題文読解型問題から資料読解型問題へ

本年度は資料読解型問題であった。現代日本人のストレスに関する調査結果について述べた文章とグラフを参照し、3つの間に答えるものであった。括弧に適切な語句や数値を書き入れる、調査結果についてまとめる文章を200～250字で書く、調査結果から考えられることを400字程度で述べるというものであった。

対策 課題文読解型についても練習しておこう

本年度は資料読解型であったが、データ解析などを含む他大学の総合問題に加えて典型的な課題文読解型問題にも取り組んだ方がよい。この点を含めて対策は2点となる。1点目は「課題文読解型問題」対策である。まず、課題文の要点を100～200字程度でまとめる。素材は時事問題を取り上げた新聞記事が良い。次に論点に対して賛成、反対といった自分の立場を明確にした上でその理由を述べる。一方で社会科学系の課題文読解型の問題で課題文と解答例から知識や発想を吸収すると良い。

2点目は「資料読解型問題」対策である。資料の読解は練習しなければうまくいかない。社会科学や現代の国語の教科書や資料集、共通テスト対策問題集で数値が表されている図表を取り出し、その図表からどういうことが読み取れるのかを考えることだ。教科担当の先生に自分の読み取りが正しいかどうかを聞いてみると良い。問題としては社会科学系及び自然科学系の資料読解型の問題が良いだろう。

学習法 他大学の過去問も最大限に利用しよう。

資料読解型問題は資料を「どのように読み取るか」が学習の第一歩といえる。国語の共通テスト対策問題集の資料を含んだ問題文で、資料からどういうことが読み取れるのかを参考にする。資料読解用のノートを用意して、資料をコピーしノートに貼り付け、資料のどこからどのようなことが読み取れるのかを書き加えていく。これを繰り返すことで「分析力」を身につけることができる。また、文章中に出てくる数値が資料のどこから出ているか、どのようにして算出されたのかをチェックすることだ。計算問題が出されないとも限らないからだ。

以上に加えて、他大学の総合問題にも取り組もう。空欄補充問題や内容説明問題を含む資料読解型問題及び課題文読解型問題を教材にして、こちらも3～5回繰り返そう。